

2 これからのむらづくりについて

(1) 重点的に取り組むべき施策

問6 あなたは、村の行政の中で、今後、特に力を入れてほしいと思うことはなんですか。
【複数回答】

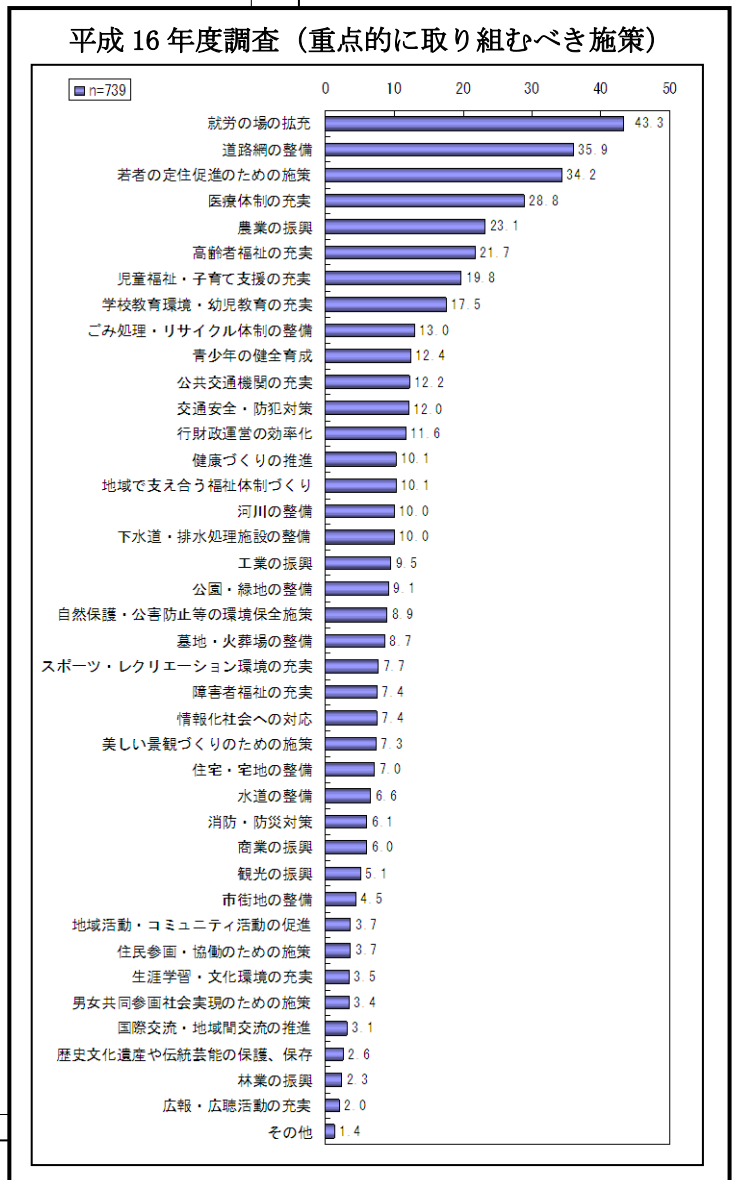
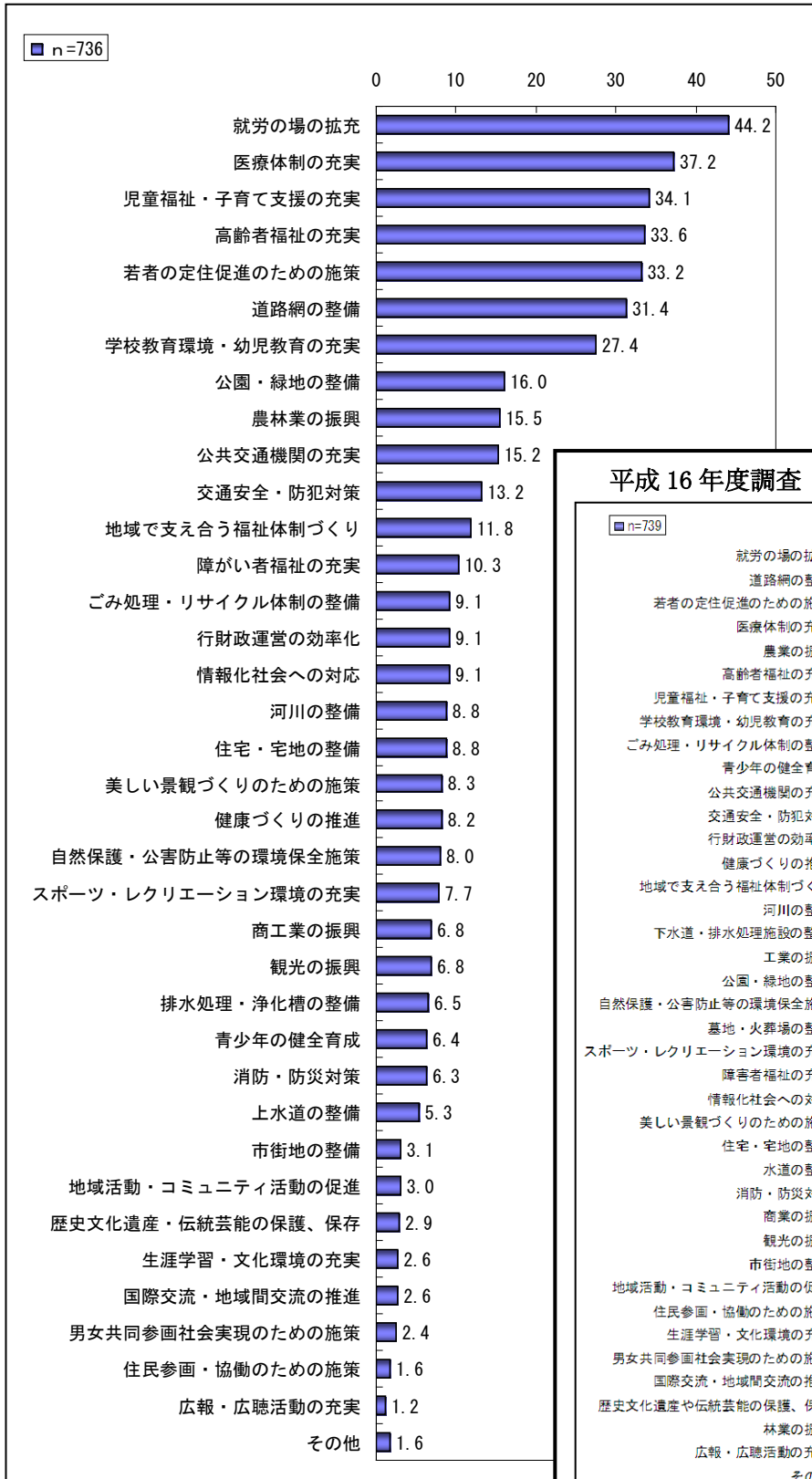
- 「就労の場の拡充」が 44.2%で他をやや引き離して第1位。次いで「医療体制の充実」、「児童福祉・子育て支援の充実」、「高齢者福祉の充実」、「若者の定住促進のための施策」の順。
- 平成16年度調査では、「就労の場の拡充」が第1位。次いで「道路網の整備」、「若者の定住促進のための施策」、「医療体制の充実」、「農業の振興」の順。

今後特に力を入れるべき施策についてたずねたところ、「就労の場の拡充」が44.2%で他をやや引き離して第1位となっている。次いで「医療体制の充実」が37.2%で第2位、「児童福祉・子育て支援の充実」が34.1%で第3位、以下、「高齢者福祉の充実」(33.6%)、「若者の定住促進のための施策」(33.2%)、「道路網の整備」(31.4%)、「学校教育環境・幼児教育の充実」(27.4%)などの順となっている。[図表17参照]

平成16年度調査と比較すると、「就労の場の拡充」は前回調査と変わらず第1位となっており、依然として要望が高い施策であることがうかがわれる。また、前回第2位の「道路網の整備」や「若者の定住促進のための施策」については、今回も上位回答には入っているものの、それよりも、“医療”、“子育て”、“高齢者”などの福祉施策への要望が高くなっていることが特徴として挙げられる。[図表17参照]

属性別にみても、全体で上位5位に挙げられている項目がほとんどの層で上位5位に挙げられているが、性別の男性(35.9%・第2位)と年齢別の60代(46.2%・第2位)、70歳以上(34.2%・第3位)では、全体で第6位の「道路網の整備」を上位に挙げているなどの特徴がみられます。[図表18参照]

図表 17 重点的に取り組むべき施策(全体/複数回答)



図表 18 今後特に力を入れるべき施策について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別/複数回答)

(上位 5 位)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全体		就労の場の拡充 44.2	医療体制の充実 37.2	児童福祉・子育て支援の充実 34.1	高齢者福祉の充実 33.6	若者の定住促進のための施策 33.2
性別	男	就労の場の拡充 44.0	道路網の整備 35.9	若者の定住促進のための施策 35.6	医療体制の充実 32.2	児童福祉・子育て支援の充実 31.7
	女	就労の場の拡充 44.4	医療体制の充実 42.8	高齢者福祉の充実 38.1	児童福祉・子育て支援の充実 36.1	学校教育環境・幼児教育の充実 31.9
年齢別	10~20代	就労の場の拡充 41.5	児童福祉・子育て支援の充実 38.4	医療体制の充実 37.2	若者の定住促進のための施策 32.3	道路網の整備 29.3
	30代	児童福祉・子育て支援の充実 58.5	学校教育環境・幼児教育の充実 44.4	就労の場の拡充 40.1	医療体制の充実 38.7	公園・緑地の整備 30.3
	40代	就労の場の拡充 51.1	医療体制の充実 42.1	学校教育環境・幼児教育の充実/若者の定住促進のための施策 36.8	道路網の整備 29.3	
	50代	就労の場の拡充 53.0	若者の定住促進のための施策 42.4	高齢者福祉の充実 36.4	医療体制の充実 34.1	道路網の整備 28.8
	60代	高齢者福祉の充実 48.7	道路網の整備 46.2	就労の場の拡充 42.3	若者の定住促進のための施策 33.3	農林業の振興/医療体制の充実 28.2
	70歳以上	高齢者福祉の充実 56.6	医療体制の充実 43.4	道路網の整備 34.2	農林業の振興 30.3	就労の場の拡充 28.9
業種別	第 1 次産業	農林業の振興 55.0	就労の場の拡充 47.7	医療体制の充実 39.6	高齢者福祉の充実 37.8	道路網の整備/若者の定住促進のための施策 36.9
	第 2 次産業	就労の場の拡充 50.2	児童福祉・子育て支援の充実 39.8	医療体制の充実 36.8	若者の定住促進のための施策 35.3	道路網の整備 29.9
	第 3 次産業	就労の場の拡充 42.6	児童福祉・子育て支援の充実 40.0	医療体制の充実/学校教育環境・幼児教育の充実 37.4	高齢者福祉の充実 35.8	
	その他	就労の場の拡充 40.1	医療体制の充実 38.6	高齢者福祉の充実 34.8	児童福祉・子育て支援の充実 30.4	若者の定住促進のための施策 30.0
居住地別	蓬田地区	就労の場の拡充 42.2	医療体制の充実 33.8	児童福祉・子育て支援の充実 33.1	高齢者福祉の充実 31.6	道路網の整備 30.3
	小平地区	就労の場の拡充 46.8	医療体制の充実 39.2	高齢者福祉の充実 36.1	若者の定住促進のための施策 35.5	児童福祉・子育て支援の充実 34.5

3 生活環境について

(1) 特に整備充実が必要な生活環境施設について

問7 あなたがお住まいの身近な生活環境のなかで、特にどのような施設の整備充実が必要だと思えますか。【複数回答】

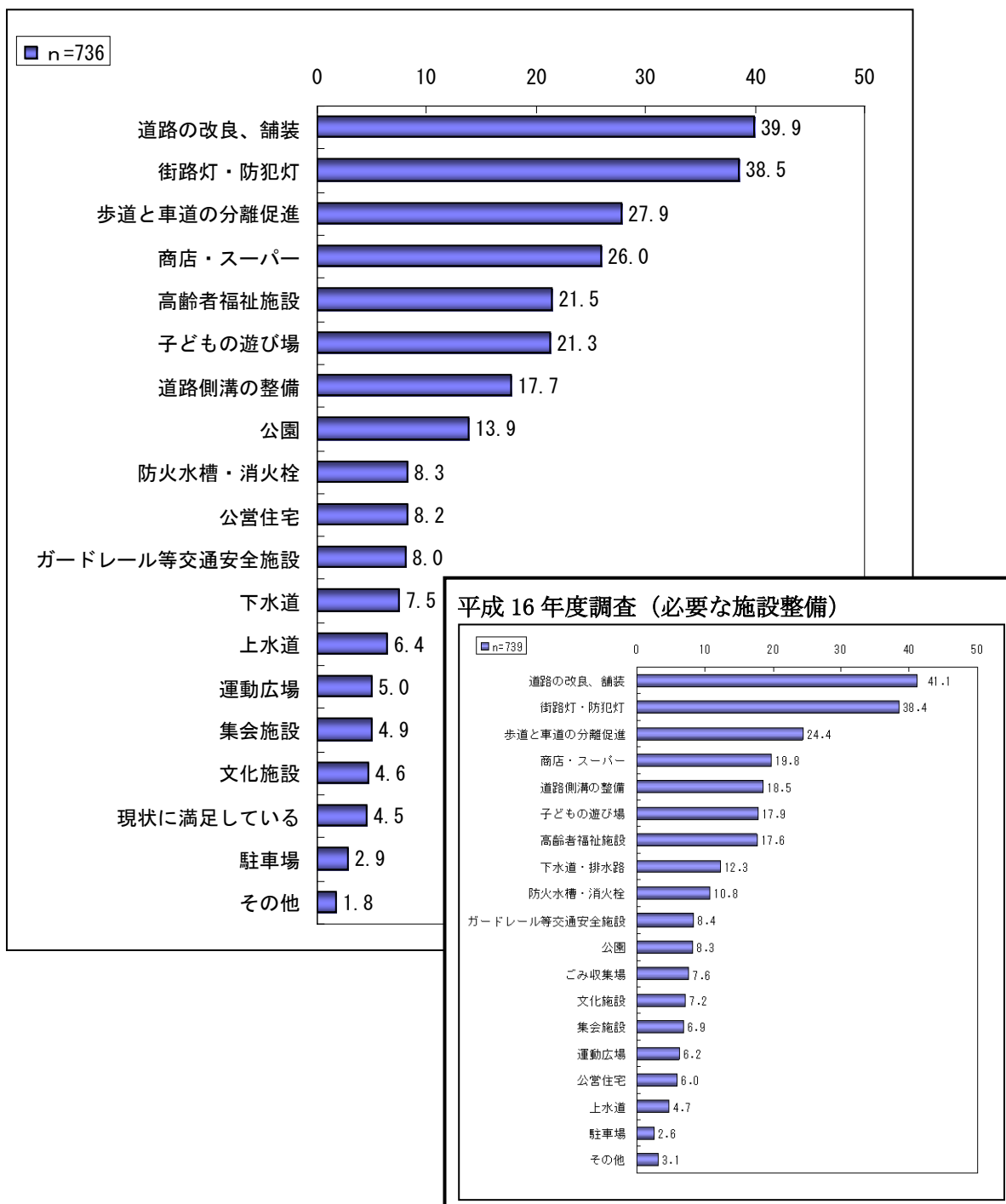
- 「道路の改良、舗装」及び「街路灯・防犯灯」が2大要望。
- 平成16年度調査でも、「道路の改良、舗装」及び「街路灯・防犯灯」が2大要望。

特に整備充実が必要な生活環境施設についてたずねたところ、「道路の改良、舗装」(39.9%)が第1位に挙げられ、次いで「街路灯・防犯灯」(38.5%)が続きこれらが他をやや引き離して2大要望となっている。その他、「歩道と車道の分離促進」(27.9%)、「商店・スーパー」(26.0%)、「高齢者福祉施設」(21.5%)、「子どもの遊び場」(21.3%)、「道路側溝の整備」(17.7%)、「公園」(13.9%)、「防火水槽・消火栓」(8.3%)、「公営住宅」(8.2%)、「ガードレール等交通安全施設」(8.0%)、「下水道」(7.5%)、「上水道」(6.4%)、「運動広場」(5.0%)、「集会施設」(4.9%)、「文化施設」(4.6%)、「駐車場」(2.9%)の順となっている。なお「現状に満足している」は4.5%であった。[図表19参照]

平成16年度調査と比較すると、上位4位までの回答は前回調査と変わらず、要望が高い施策であることがうかがわれる。[図表19参照]

属性別にみると、全体で第4位の「商店・スーパー」を上位3位に上げているのは、性別の女性(27.8%・第3位)、年齢別の10~20代(44.5%・第1位)、30代(32.4%・第3位)、業種別の第3次産業(30.5%・第3位)、居住地別の小平地区(31.8%・第3位)となっており、特徴として挙げられる。[図表20参照]

図表 19 特に整備充実が必要な生活環境施設について(全体/複数回答)



図表 20 特に整備充実が必要な生活環境施設について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別/複数回答)

(上位3位)

		第1位	第2位	第3位
全体		道路の改良、舗装 39.9	街路灯・防犯灯 38.5	歩道と車道の分離促進 27.9
性別	男	道路の改良、舗装 42.0	街路灯・防犯灯 35.0	歩道と車道の分離促進 30.0
	女	街路灯・防犯灯 41.1	道路の改良、舗装 38.1	商店・スーパー 27.8
年齢別	10~20代	商店・スーパー 44.5	道路の改良、舗装 38.4	街路灯・防犯灯 36.0
	30代	子どもの遊び場 43.0	道路の改良、舗装 34.5	商店・スーパー 32.4
	40代	街路灯・防犯灯 50.4	道路の改良、舗装 30.8	歩道と車道の分離促進 27.1
	50代	道路の改良、舗装 53.0	街路灯・防犯灯 40.9	高齢者福祉施設 27.3
	60代	道路の改良、舗装 44.9	街路灯・防犯灯 39.7	高齢者福祉施設 37.2
	70歳以上	高齢者福祉施設 46.1	道路の改良、舗装 42.1	街路灯・防犯灯 27.6
業種別	第1次産業	道路の改良、舗装 51.4	高齢者福祉施設 32.4	街路灯・防犯灯 30.6
	第2次産業	道路の改良、舗装 41.8	街路灯・防犯灯 40.3	歩道と車道の分離促進 29.4
	第3次産業	街路灯・防犯灯 40.5	道路の改良、舗装 37.4	商店・スーパー 30.5
	その他	街路灯・防犯灯 39.1	道路の改良、舗装 36.7	歩道と車道の分離促進 29.5
居住地別	蓬田地区	道路の改良、舗装 40.0	街路灯・防犯灯 35.0	子どもの遊び場 26.6
	小平地区	道路の改良、舗装 41.6	街路灯・防犯灯 41.1	商店・スーパー 31.8

4 消防・防災対策について

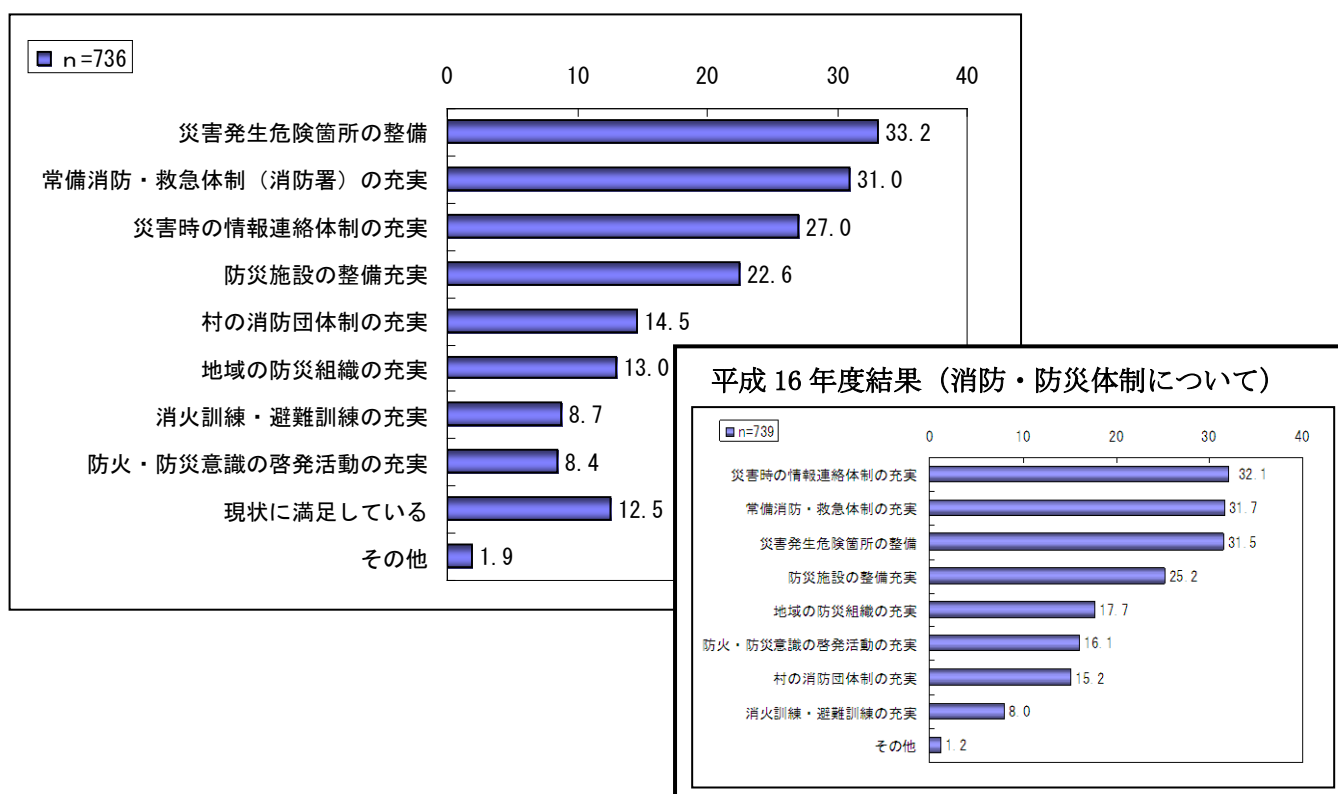
(1) 今後力を入れるべき村の消防・防災体制について

問8 あなたは、村の消防・防災体制について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 「災害発生危険箇所の整備」が第1位。次いで「常備消防・救急体制（消防署）の充実」、「災害時の情報連絡体制の充実」の順。
- 平成16年度調査では、「災害時の情報連絡体制の充実」が第1位。次いで「常備消防・救急体制（消防署）の充実」、「災害発生危険箇所の整備」の順。

今後力を入れるべき村の消防・防災体制についてたずねたところ、「災害発生危険箇所の整備」が33.2%で第1位、次いで「常備消防・救急体制（消防署）の充実」が31.0%で第2位、以下「災害時の情報連絡体制の充実」（27.0%）、「防災施設の整備充実」（22.6%）、「村の消防団体制の充実」（14.5%）、「地域の防災組織の充実」（13.0%）、「消火訓練・避難訓練の充実」（8.7%）、「防火・防災意識の啓発活動の充実」（8.4%）の順となっている。なお「現状に満足している」は12.5%であった。[図表21、22参照]

図表21 今後力を入れるべき村の消防・防災体制について(全体/複数回答)



図表 22 今後力を入れるべき村の消防・防災体制について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別/複数回答)

(上位3位)

		第1位	第2位	第3位
全体		災害発生危険箇所の整備 33.2	常備消防・救急体制（消防署）の充実 31.0	災害時の情報連絡体制の充実 27.0
性別	男	常備消防・救急体制（消防署）の充実 34.7	災害発生危険箇所の整備 33.6	災害時の情報連絡体制の充実 23.2
	女	災害発生危険箇所の整備 33.3	災害時の情報連絡体制の充実 30.6	常備消防・救急体制（消防署）の充実 26.9
年齢別	10～20代	災害発生危険箇所の整備 38.4	常備消防・救急体制（消防署）の充実 28.0	災害時の情報連絡体制の充実 26.8
	30代	常備消防・救急体制（消防署）の充実 31.0	災害発生危険箇所の整備 30.3	防災施設の整備充実 23.2
	40代	災害発生危険箇所の整備 36.8	災害時の情報連絡体制の充実 33.1	常備消防・救急体制（消防署）の充実 29.3
	50代	災害発生危険箇所の整備 32.6	常備消防・救急体制（消防署）の充実 31.8	防災施設の整備充実/災害時の情報連絡体制の充実 24.2
	60代	災害時の情報連絡体制の充実 37.2	常備消防・救急体制（消防署）の充実 35.9	災害発生危険箇所の整備 24.4
	70歳以上	常備消防・救急体制（消防署）の充実 31.6	災害発生危険箇所の整備 30.3	地域の防災組織の充実 21.1
業種別	第1次産業	常備消防・救急体制（消防署）の充実/災害時の情報連絡体制の充実/災害発生危険箇所の整備 33.3		
	第2次産業	災害発生危険箇所の整備 33.8	災害時の情報連絡体制の充実 26.9	常備消防・救急体制（消防署）の充実 25.9
	第3次産業	常備消防・救急体制（消防署）の充実 35.8	災害発生危険箇所の整備 34.2	防災施設の整備充実 27.4
	その他	災害発生危険箇所の整備 33.3	常備消防・救急体制（消防署）の充実 30.4	災害時の情報連絡体制の充実 27.5
居住地別	蓬田地区	災害発生危険箇所の整備 33.1	災害時の情報連絡体制の充実 29.7	常備消防・救急体制（消防署）の充実 29.4
	小平地区	災害発生危険箇所の整備 32.6	常備消防・救急体制（消防署）の充実 32.4	災害時の情報連絡体制の充実 25.8

5 土地利用について

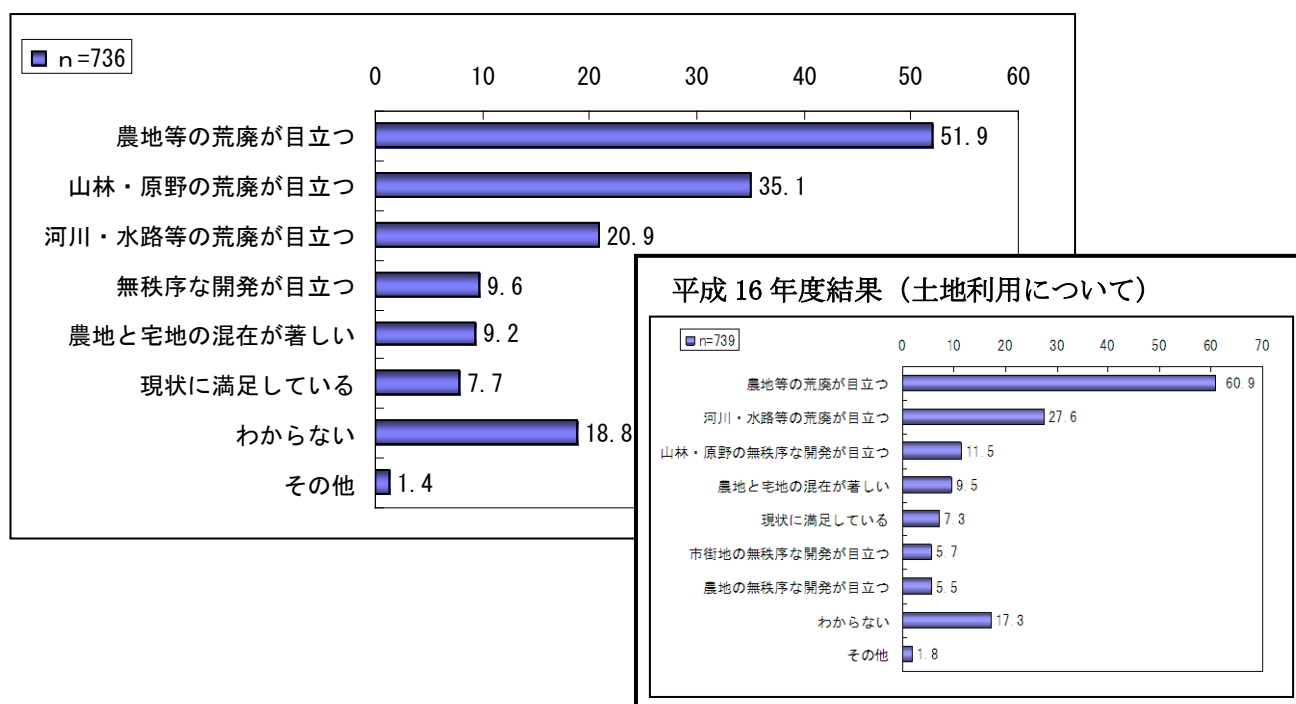
(1) 村全体の土地利用について

問9 土地(農地、山林、河川、道路、宅地、公園等)の使われ方のことを「土地利用」といいますが、平田村全体の土地利用について、あなたはどのように思いますか。
【複数回答】

- 「農地等の荒廃が目立つ」が他を大きく引き離して第1位。
- 平成16年度調査でも、「農地等の荒廃が目立つ」が他を大きく引き離して第1位。

村全体の土地利用についてたずねたところ、「農地等の荒廃が目立つ」が51.9%で他を大きく引き離して第1位となっている。以下「山林・原野の荒廃が目立つ」(35.1%)、「河川・水路等の荒廃が目立つ」(20.9%)、「無秩序な開発が目立つ」(9.6%)、「農地と宅地の混在が著しい」(9.2%)の順となっている。なお「現状に満足している」は7.7%、「わからない」は18.8%であった。[図表23、24参照]

図表23 村全体の土地利用について(全体/複数回答)



図表 24 村全体の土地利用について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別/複数回答)

(上位3位)

		第1位	第2位	第3位
全体		農地等の荒廃が目立つ 51.9	山林・原野の荒廃が目立つ 35.1	河川・水路等の荒廃が目立つ 20.9
性別	男	農地等の荒廃が目立つ 55.2	山林・原野の荒廃が目立つ 38.9	河川・水路等の荒廃が目立つ 21.3
	女	農地等の荒廃が目立つ 48.3	山林・原野の荒廃が目立つ 29.4	わからない 23.3
年齢別	10~20代	農地等の荒廃が目立つ 34.1	山林・原野の荒廃が目立つ 31.1	わからない 29.3
	30代	農地等の荒廃が目立つ 40.8	わからない 26.1	山林・原野の荒廃が目立つ 21.8
	40代	農地等の荒廃が目立つ 52.6	山林・原野の荒廃が目立つ 30.8	河川・水路等の荒廃が目立つ 21.8
	50代	農地等の荒廃が目立つ 69.7	山林・原野の荒廃が目立つ 45.5	河川・水路等の荒廃が目立つ 26.5
	60代	農地等の荒廃が目立つ 66.7	山林・原野の荒廃が目立つ 44.9	河川・水路等の荒廃が目立つ 26.9
	70歳以上	農地等の荒廃が目立つ 63.2	山林・原野の荒廃が目立つ 43.4	河川・水路等の荒廃が目立つ 22.4
業種別	第1次産業	農地等の荒廃が目立つ 71.2	山林・原野の荒廃が目立つ 46.8	河川・水路等の荒廃が目立つ 26.1
	第2次産業	農地等の荒廃が目立つ 52.7	山林・原野の荒廃が目立つ 36.8	河川・水路等の荒廃が目立つ/わからない 18.9
	第3次産業	農地等の荒廃が目立つ 50.5	山林・原野の荒廃が目立つ 32.1	わからない 19.5
	その他	農地等の荒廃が目立つ 44.0	山林・原野の荒廃が目立つ 30.4	わからない 23.2
居住地別	蓬田地区	農地等の荒廃が目立つ 48.8	山林・原野の荒廃が目立つ 35.0	河川・水路等の荒廃が目立つ 18.8
	小平地区	農地等の荒廃が目立つ 54.5	山林・原野の荒廃が目立つ 34.7	河川・水路等の荒廃が目立つ 22.6

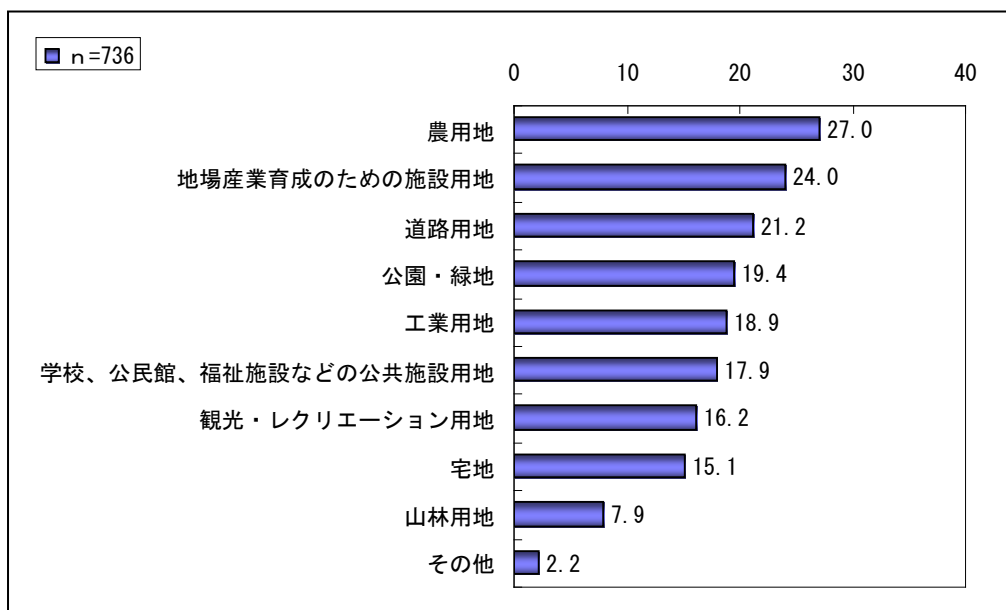
(2) 優先的に整備すべき用地について

問 10 今後の村勢の発展に向けて、計画的な土地の利用を進めていくが必要になりますが、優先的に整備していくとしたらどの用地だと思いますか。【複数回答】

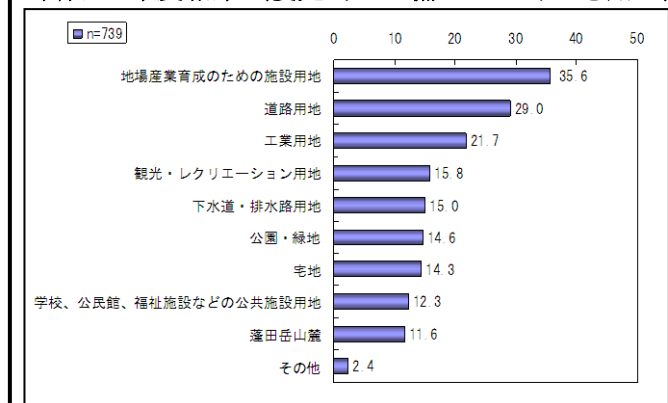
- 「農用地」、「地場産業育成のための施設用地」、「道路用地」の順。
- 平成 16 年度調査では、「地場産業育成のための施設用地」が第 1 位、次いで「道路用地」、「工業用地」の順。

優先的に整備すべき用地についてたずねたところ、「農用地」(27.0%)、「地場産業育成のための施設用地」(24.0%)、「道路用地」(21.2%)、「公園・緑地」(19.4%)、「工業用地」(18.9%)、「学校、公民館、福祉施設などの公共施設用地」(17.9%)、「観光・レクリエーション用地」(16.2%)、「宅地」(15.1%)、「山林用地」(7.9%)の順であった。[図表 25、26 参照]

図表 25 優先的に整備すべき用地について(全体/複数回答)



平成 16 年度結果 (優先的に整備していくべき用地)



図表 26 優先的に整備すべき用地について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別/複数回答)

(上位3位)

		第1位	第2位	第3位
全体		農用地 27.0	地場産業育成のための施設用地 24.0	道路用地 21.2
性別	男	農用地 27.5	地場産業育成のための施設用地 24.1	道路用地 23.0
	女	農用地 25.3	公園・緑地 23.9	地場産業育成のための施設用地 23.3
年齢別	10~20代	道路用地 29.9	観光・レクリエーション用地 25.6	公園・緑地 23.2
	30代	公園・緑地 35.2	学校、公民館、福祉施設などの公共施設用地 21.8	宅地 19.7
	40代	農用地 29.3	工業用地 24.1	地場産業育成のための施設用地/学校、公民館、福祉施設などの公共施設用地 23.3
	50代	農用地/地場産業育成のための施設用地 35.6	道路用地 27.3	
	60代	農用地 41.0	工業用地 25.6	地場産業育成のための施設用地 24.4
	70歳以上	農用地 47.4	地場産業育成のための施設用地 30.3	山林用地/道路用地 17.1
業種別	第1次産業	農用地 50.5	地場産業育成のための施設用地 32.4	道路用地 21.6
	第2次産業	地場産業育成のための施設用地 25.9	道路用地 23.9	農用地 23.4
	第3次産業	公園・緑地/学校、公民館、福祉施設などの公共施設用地 24.7	農用地 21.6	
	その他	公園・緑地 23.2	農用地 22.7	地場産業育成のための施設用地 21.7
居住地別	蓬田地区	農用地 30.9	地場産業育成のための施設用地 21.6	公園・緑地 20.9
	小平地区	地場産業育成のための施設用地 27.4	農用地 24.5	道路用地 23.2